types of gemmaling, as 1) gemma→filamentous protonema→globose cell-mass →young thallus, and 2) gemma→globose cell-mass→young thallus. Nehira (1962) also observed two patterns in the sporeling, and he named the Pallavicinia-type for the first pattern and the Riccardia-type for the second. However, it was shown that these two patterns were identical and the second pattern of gemmaling was caused by rather high intensity of light.

□小松元比出（基秀）：**土佐韮生方言辞書**．土佐民俗叢書9，35頁。土佐民俗学会（高知）．昭和52年10月．2,000円．韮生は高知県の東北部の山間である。そこの方言三千余を集め，それに語義をたずねたものである。本文篇・動物篇・植物篇の3編に分かれ，ことに本文篇はその言葉を使った語句が例証として挙がっているので一層わかり易く，またよんでいてまことに楽しい。中にはアカトキ（暁），ウラ（梢），アサギ（雑木），エンコー（河童）などの，古典に現れた古語が残っているのは貴重である。植物篇は動物篇よりずっと多い。コーカギ（ネムノキ）やシレイ（ヒガンバナ）などの古語があるし，シロアサダ（アオガシ），アカアサダ（シロモジ），クスアサダ（ヤブニッケイ）などの類語や，ヤマナラシ，ゴンゼツ，ミズキを，三者ともにシロキというなど，それにエビナ（ギボウシ），ヒイナ（イヌビユ），トチナ（オトコエシ），カンゾウナ（ヤブカンゾウ）など往時の食糧であったことを示す名などまことに参考になる。

（前川文夫）

□遼寧省林業土壌研究所：**東北蘚類植物誌**．北京科学出版社，404頁，261図．1977．この本の著者は不明であるが，巻末にある新種，新変種等の命名者は Ch. Gao（高謙）となっている。本書は1963年に発行された「中国蘚類植物属志」の各論篇のようなものである。ほとんど未開のこの地域のセン類が一挙に明らかにされた。45科153属433種43変種の記載が中国語で書かれ，ほとんどの種に図が付されている。図はほとんどが新しく画かれたもので，出来ばえもよい。巻末には5新種，5新変種の記載があり，図は本文中に示されている。日本のコケ植物研究者には重要な文献となり，見逃せない。日本円で約2000円。

（井上 浩）

□鈴木昌友：**茨城の花**．常陽新聞社，421頁，1976年4月，定価2200円．茨城県に生れた著者が，常陽新聞に110回にわたって随筆風に記した植物記から，100種を選んでまとめたもの。各項ごとに写真や図があり，一般の人々が植物に親しむきっかけとなるような読みやすい文でつづられている。淡々とした話のなかにも味わいがある。

（木村陽二郎）